大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

＊特集
大学と大学出版部の連携
――第三二回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー

岡田智武　1
第三二回日韓セミナーを振り返る

玄尚澈　4
強要された変化なのか、能動的変身なのか――関係と存在の選択肢、韓国大学出版部の事例

角田光隆　12
日本における状況と、ミッションの「集合的な遂行」――玄尚澈先生へのコメント

川上展代　14
大学、社会との新しい関係――「知」を繋ぐショセキカプロジェクト

＊連載
中垣信夫　18
命の形 形の命 No. 02

大学出版部ニュース　20

No. 101
2015.1
冬

一般社団法人
大学出版部協会

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

大学出版部協会創立50周年記念シンポジウム・ブックレット

大学出版部協会　発行／東京大学出版会　発売【2014年6月刊】

2013年5月から4回にわたり開催された連続シンポジウム「新しい社会を拓く大学の力」の成果より2点をブックレットに。

日本生命財団学術書出版助成図書

座小田豊　ざこたゆたか（東北大学大学院文学研究科教授）
田中克　たなかまさる（京都大学名誉教授）
川崎一朗　かわさきいちろう（京都大学名誉教授）

防災と復興の知　3・11以後を生きる

A5 判・80 頁／定価（本体 1,000 円＋税）ISBN978-4-13-003150-9

列島沿岸を巨大堤防で覆う？――これまで通りの高度技術をふりかざすだけで、はたして本当に強靭な社会をつくることができるのか。哲学・生態学・地震学による対話を通して、自然と社会を千年の単位で見直し、再生のための知のあり方を探る。

〈主要目次〉

第一章「ふるさと」の根源的な力と想像力の可能性（座小田豊）／第二章　森里海の連環から震災と防災を考える（田中克）／第三章　災害社会――本当に強い社会とは（川崎一朗）／終章「ふるさと」から「ふるさと」へ（座小田豊）

中村哲之　なかむらのりゆき（東洋学園大学人間科学部専任講師）
渡辺茂　わたなべしげる（慶應義塾大学名誉教授）
開一夫　ひらきかずお（東京大学大学院総合文化研究科教授）
藤田和生　ふじたかずお（京都大学大学院文学研究科教授）

心の多様性　脳は世界をいかに捉えているか

A5 判・80 頁／定価（本体 1,000 円＋税）ISBN978-4-13-003151-6

トリ、ヒト、それぞれが視る世界は同じものではない。赤ちゃんはいつごろから自分を自分と認識するのか。心の働きの多様性を比較認知科学・発達認知科学の視点からわかりやすく解き明かす。

〈主要目次〉

第一章　トリの「視る」世界――動物の錯視と心（中村哲之）／第二章　ヒト型脳とハト型脳（渡辺茂）／第三章　脳は世界をいかに捉えているか（開一夫）／第四章　討論――心の多様性と現代（藤田和生×中村哲之・渡辺茂・開一夫）／あとがき（藤田和生）

特集＊大学と大学出版部の連携

第三二回日韓セミナーを振り返る

岡田智武（慶應義塾大学出版会）

二〇一四年八月二一日(木)、「第三二回日本・韓国大学出版部協会合同セミナー」が開催された。

前回二〇一二年の日本での合同セミナーは、東京国際ブックフェアにあわせて、東京のビッグサイト、中央大学駿河台記念館をメイン会場として行われたが、今回の会場は、富山市・高志(こし)の国(くに)文学館。八月二二日・二三日に行われた大学出版部協会夏季研修会へと続く日程で開催された。

韓国側からは、權元淳(クォンウォンスン)会長をはじめ、一五名の皆様に来日をいただき、日本側からも四〇名を超える多数の方々の参加をいただいた。まずはこの場を借りて、ご多用のなか、本合同セミナーに参加、協力をいただいた皆様に、心からの御礼を申し上げたい。

さて、日韓合同セミナーの主催日は、八月二一日であったが、日本・韓国の代表者会議が行われた八月二〇日から、時系列で今回の日韓セミナーを振り返ってみたい。

二〇一四年八月二〇日(水)

韓国側は、小松空港に一〇時五〇分着の予定であったため、後藤健介国際委員長に、まずは空港で出迎えていただいた。

一三時、小松空港からバスで、韓国出版部協会の皆様がホテルへ到着した。今回の日韓セミナーにおける宿泊地は、セミナー会場にも近いＡＮＡクラウンプラザホテル。黒田拓也理事長、前島康樹副理事長をはじめとして、先着していた協会メンバーで出迎え、今セミナーの資料及びネームプレートをお渡しして、韓国側の参加人数、氏名の確認を行った。

なお、今回、韓国側から参加をいただいた出版部の方々は、下記のとおりである(敬称略)。

韓国外国語大学校出版部から四名(会長・權元淳、鄭在原、

会場での記念撮影

北大学校出版文化院から一名（宋德鎬）。

その後一七時から、ホテルに隣接する富山国際会議場において、日本側・韓国側の代表による代表者会議が行われた。代表者会議は、日韓合同セミナーに際して毎回行われている。両国が顔をつき合わせて率直な意見交換をする、年一回の機会である。今回の議題は、中国大学出版社協会に対する対応について、二〇一五年度日韓セミナーの開催及び交流内容についての二つであった。各国の役員紹介後に、議題について様々な意見が交わされたが、二〇一五年度の日韓セミナーは「大学出版部の未来・現在・過去」を暫定テーマとして、企画の面に焦点をあてたセミナーにすることが合意された。

一九時からは、ホテルにほど近い料亭「いきいき亭」で、歓迎晩餐会が行われた。なお、二〇日の晩餐会会場、翌日の交流晩餐会会場ともに北陸の風情・伝統を感じる佇まいをもつ場所であったからか、韓国出版部協会の皆様には大変お喜びをいただいた。

二〇一四年八月二一日（木）

通常、セミナー終了後に行っているエクスカーションであるが、今回は予定の都合上、セミナーの開始前に行わせていただいた。八時三〇分、韓国側の皆様にはホテルロビーに集合をしていただき、富岩運河環水公園、富岩水上ラインなど見学をした。

そして一三時三〇分、笹岡五郎事務局長の司会のもと、第三二回日韓セミナーが開始された。まずはセミナー開催にあたって、黒田理事長、権会長の挨拶、恒例の記念品の交換が行われた。

申善皓、金光順）、高麗大学校出版部から二名（劉錫勳、柳在赫）、放送通信大学校出版文化院から二名（金泰潤、鄭鐘聲）、ソウル大学校出版文化院から二名（權英子、郭眞姫）、成均館大学校出版部から一名（玄尚澈）、誠信女子大学校出版部から一名（朴貞惠）、延世大学校出版文化院から二名（崔碩哲、劉洙蓮）、全

今回のセミナーでは、特別なテーマ設定は行わず、韓国側の主題発表とそれに対する日本側のコメント発表、及び日本側のケーススタディ二つを中心に組み立てられた。

韓国側の主題発表は、成均館大学校出版部・玄尚澈氏「強要された変化なのか、能動的変身なのか」（本誌四－一一頁）。母体大学と大学出版部との関係性、そして出版部の役割や在り方について発表されたものである。それに対するコメント発表は、東京大学出版会・角田光隆氏「日本における状況と、ミッションの「集合的な遂行」」（本誌一二－一三頁）である。

ケーススタディは、東京電機大学出版局・石沢岳彦氏「東京電機大学出版局における NetLibrary への取り組み」と、京都大学学術出版会・永野祥子氏「大学出版部協会シンポジウムの開催と書籍化」。前者は分析データを用いた NetLibrary での販売事例の報告、後者は協会五〇周年記念事業の一つとして行われた公開シンポジウムの概要とその成果の報告であった。主題、コメント、また両ケーススタディともに、昨今大学出版部が取り組み、また直面している問題を取り扱うテーマであったため、当日は両国からの質疑応答が盛んに行われた。

一六時三〇分からは、これも恒例となっている版権交渉が行われた。日韓両国の書籍が五〇冊以上展示され、日本側の書籍一一冊に対しては、翻訳の可能性も打診された。

会場での記念撮影後、一九時から、日韓あわせて五八名の方々に参加をいただき、会場から遠くない「松や本店」にて最後の行事である交流晩餐会が開催された。晩餐会の冒頭、黒田理事長、權会長の総括挨拶が行われ、第三二回日韓セミナーも無事終了した。セミナー会場では話すことが難しい話題も、こうした酒食をともにする場であればお互い話しやすい。

本セミナーの一連の行事を通じて、日本・韓国両国出版部の人的関係がさらに緊密になったことを実感して、より実りの多い二〇一五年度の合同セミナーに繋がればと願っている。

史料から考える
世界史二〇講
歴史学研究会 編
古代エジプトの官僚の夢から，現代世界の平和の問題に至るまで，さまざまな史料から歴史を読み解き，世界史を学ぶ魅力を伝える．
A5判・本体2300円

共同研究
上海の日本人社会とメディア 1870-1945
和田博文・徐静波・西村将洋
宮内淳子・和田桂子
日清・日露戦争を経て，在留日本人は急速に増加する．1925年に２万人に達した上海の日本人社会の全貌と変遷を明らかにする．A5判・本体10,000円
（口絵4丁）

日中における西欧立憲主義の継受と変容
高橋和之 編
西欧立憲主義の継受過程を「西欧から日本」だけでなく，「日本から中国」というベクトルをも組み込んだ共同研究．
A5判・本体5500円

【岩波テキストブックスα】
大学一年生の文章作法
山本幸司
名文や美文ではなく，「分かる・伝わる」文章を書くための作文技術とは？苦手意識を取り除き，言葉への感覚を豊かにする文章表現講義．
A5判・本体2200円

岩波書店
東京・千代田・一ツ橋
［定価は表示価格＋税］
http://www.iwanami.co.jp/

強要された変化なのか、能動的変身なのか——関係と存在の選択肢、韓国大学出版部の事例

玄尚澈（ヒョンサンチョル）（成均館大学出版部）

北極の海に魚がいて、その名を鯤（こん）とした。鯤の大きさは幾千里になるか知らない。それが鳥になるとその名は鵬（ほう）とするのだが、鵬の胴体も長さが幾千里になるか知らない。　——荘周『荘子』「逍遙遊」より

鳥は卵から抜け出すために戦う。卵はすなわち世界だ。生まれようとする者は一つの世界を破壊しなければならない。鳥は神に向かって飛ぶ。その神の名はアプラクサスという。　——ヘッセ『デミアン』より

「大学（本部）」と「大学出版部」の関係は、「母体」と「付属」という古典的な枠組みの中にとどまっている。これは大学における学術コンテンツを印刷・出版するために設立された出版部の存在の根拠を説明するには充分だろう。

しかし、ますます多様になり加速化していく出版界の変化は、大学出版部においてもさまざまな影響を及ぼし、自らの「変身」を促す。変身とは、自らの境界を越え、別の人世の次元に移動することである。たとえば存在と関係の拡張である。本稿はこのような変身の存在論の立場から、出版部と母体大学との関係を取り上げる。

＊

韓国で大学出版部の起源を探るとすると、国家が設置した昔の教育機関の大学のもとでなされた試みとして中世的な風景を描くようで、近代的意味としての大学出版部の原型を探す試みはまだされていないように思う。

現在も着実に役割を果たしてきている大学出版部の中で比較的、現代的な淵源をもつ出版部——梨花女子大学出版部（一九四九年設立）、高麗大学出版部（一九五六年設立）、ソウル大学出版文化院（一九六一年設立）——の、設立の根拠を調べてみると、欧米の大学出版部の軌跡から大きく離れない。ただ、運営の形や人的構成など、母体大学との

関係を推測できる組織の全容は具体的に公開されていない。

実存

比較的規模の整った一部を除いて、いまだに韓国で大学出版部の組織形態がはっきりつかめない理由は「母体大学への依存性」と、その「規模の零細性」からだと思われる（これは逆に設立の根拠から照らしてみると、母体大学の根幹の上でしっかりした組織を立てていくべき大学出版部が、自らの役割を充分に果たしていないという反証であるとも解釈できる）。実際、出版部は大学内の小さい付属機関として隠れていて、書籍の販売に基づいて収益と損失が発生する厳然とした損益計算部署であるにもかかわらず、財政運営および会計上の自立権がかなり限られており、そのため質的な跳躍のための量的構築が体系化されていない。

最近の研究資料として、クォンヨンジャの見解は以下のとおりである。

国内には現在八〇カ所の大学が大学出版部を設けているが、全般的にその規模は大学全体の組織に比べて小さなものである。所属の職員数が出版部長を含めて五人以上のところが二三カ所、そのうち一〇人以上のところは四つの大学出版部（韓国大学出版部協会、二〇一一年）程度であり、多くのところが担当職員五人以下で出版を担当しながら専門的業務を遂行している。それは、学術出版という領域が財政の支援を必要とする部門であるのに、大学当局としては予算の配分を優先的に気遣う余裕がないからだろう。出版は学問的知識の拡散という側面より文化的投資の対象と見る性格が強いので、大学の運営に集中している大学本部としては出版に対する持続的な支援をするには難しい状況であると思われる。（クォンヨンジャ「韓・日大学出版部における出版活動の実証的比較研究」『韓国出版学研究』韓国出版学会、二〇一二年）

新刊案内

綾目広治 著
松本清張——戦後社会・世界・天皇制
A5変型・三〇六頁・本体三二〇〇円
今、憲法第九条をめぐる松本清張の「杞憂」が現実のものに成りかかっている。戦後社会の中の清張小説の持つ社会的意義に迫る。

堅田 剛 著
明治憲法の起草過程——グナイストからロエスラーへ
A5判・二八〇頁・本体四八〇〇円
明治憲法の真の起草者はロエスラーであった。草案は漏洩し『西哲夢物語』として秘密出版された。明治憲法起草の最大の謎に挑む。

林 梅 著
中国朝鮮族村落の社会学的研究
A5判・二四二頁・本体六六〇〇円
一〇年間にわたるフィールド調査を通して、少数民族である中国朝鮮族の村落社会の生活現場における「国家を生きる村」の素顔に迫る。

梅村 卓 著
中国共産党のメディアとプロパガンダ
A5判・三一〇頁・本体六五〇〇円
戦後東北の共産党メディアが満洲国から何を継承し、人民共和国の成立過程にいかなる意義を持ったのか大衆宣伝の具体像に迫る。

御茶の水書房
〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://www.ochanomizushobo.co.jp/

このような大学出版部の実存的環境に対してさまざまな角度から問題点を診断し、対策を提示してきた研究は多い。

チュホンギュンは「韓国の大学出版部の構造的特性に関する研究」（一九九八年）で、組織と企画を中心に大学出版部の構造的な問題点を概観している。この研究で彼は、大学出版部が外形上に成長・発展している傾向があるものの、伝統的情報伝達のみに依存する陳腐性、組織の零細さや財政の悪循環などが問題だと指摘しながら、急変する情報化社会で大学出版部がすべき役割を論じている。

チェチャンヒは「韓国大学出版の経営改善に関する研究」（一九九五年）で、大学出版部の経営の実体を組織と運営の側面から考察し、大学出版部が発展する方策を提示している。出版の仕事は幅広い経験と知識が必要なだけに、出版部長を含む職員は、教授が兼任するなどの単純な行政職のジョブローテーションではなく、専門性を備えるべきであり、任期と身分が保障されなければならない、独立した法人としての自立経営、大学出版部の自助的な努力と大学出版部の相互間の協同化・協力化を行わなければならないと指摘している。

パクミョンヒは「韓国大学出版部の役割と機能に関する研究」（二〇〇六年）で、国内外の大学出版部の現況を紹介し、出版部本来の機能を充実させながらも変化する時代の流れにあわせていくための戦略に関して研究している。それによると、大学出版部が追求すべき企画出版について、まず専門の学術図書市場で大学出版部の役割をもっと活性化させ、その大学の特性化と結び付けて長期的な企画およびシリーズの出版をすることが大学出版部のイメージを高め、ブランドを創出するために効果的であると見ている。そして、一般読者を対象にした企画出版を強調しており、それにより大学出版部は専門家グループと高級文化指向の大衆グループの両者を対象に新たな企画の突破口を見いだせるとした。オックスフォード大学出版局のように、大学内の付設教育研究所などの人材集団を活用して教育出版市場に参加する戦略も提示している。

それぞれ異なるアプローチで診断された結果であるが、母体大学と出版部が互いに共有しているキーワードを引き出すとすれば、「出版部の自立性と、専門性をもとに特化され高度に企画されたコンテンツの生産」となる。

強要された変化なのか、能動的変身なのか

大学出版部が将来を模索するにあたり、母体大学との関係を再検討するうえで現時点で必要なことは、大学からの財政的支援や人事・会計上の独立でないことに注目しよう。すでに韓国の大学は、新自由主義という非人間的資本の環境にさらされて久しい。一九九七年、韓国は国際通貨基金ＩＭＦの救済金融体制という難しい時を耐えなければならず、その後も全世界的な金融危機を経験しながら資本の前で無力になる時代を過ごさなければならなかった。この過

程で大学には企業的マインドが注入されるようになった。百年の計である教育の理念が、競争力を備えた職業人の養成のために知らず知らずに「実用化」された。このような環境の中で、程度の差はあるだろうが大学の付属機関として出版部にも自然と競争力強化が押し迫っている。

二〇〇五年、『出版ジャーナル』（大韓出版文化協会）では「大学出版部、アカデミーとエコノミーの岐路で」という特集が組まれた。巻頭で大学を「今は高等な〈人的資源〉の養成所」と指摘するこの特集は、「競争と利潤の神話の前で」昔から大学出版部の使命であった「アカデミズム」と、効率と効用の論理が優先される「エコノミズム」の間で悩む大学出版部の様子を分析する記事で構成された。各記事のタイトルだけを見ても、「大学出版の本質と韓国的ジレンマ」「大学と大学出版部――〈産業〉ではない」「学問と現実の間で葛藤する大学出版部」「大学出版部、専門性と大衆性――〈二兎〉追うに必死」など、大学出版部の苦労とジレンマがうかがえる。

当時、建国大学出版部の部長兼韓国大学出版部協会の副会長であったジュホンギュンはこの特集の寄稿文で、韓国の大学出版部が直面している状況に対して「大学出版は公共組織である大学の中にあり、実際の機能面では徐々に一般の出版市場の論理の中に包摂されている。言い換えると、大学出版は大学内では採算性のある組織であることが、大学外では文化機関であることが要求される、相反される期待の中にあるのである。これが今日の韓国的大学出版のジレンマである」としたうえで、その一次的な原因を「大学をはじめとする国や社会団体の認識と関心の欠如からくる大学出版の環境の劣悪さを見ることができる。外向きには我が社会の総体的な文化の発展をリードする大学出版こそ基本的な純粋な出版活動として商業出版と異なる評価を受けなければならないとしながらも、そのような出版活動を適切に行うことができるように、大学がその出版環境を造成したり、充分な財政的支援をしたりすることもなく、ほとんどの大学出版部の自助的な努力を期待してきた現象を

かつて日常生活のなかにあった軍隊を、歴史的・社会的に考える体系的シリーズ
地域のなかの軍隊 全9巻 好評刊行中
既刊各2800円 『内容案内』送呈

3 列島中央の軍事拠点 中部
河西英通編　東海・北陸・内陸…。自然環境が異なり多様な軍事施設の配置が特徴である中部の実態！

5 西の軍隊と軍港都市 中国・四国
坂根嘉弘編　広島・呉・善通寺・松江・高知…。近代における軍事の要であった「西」の実態を描く。

6 大陸・南方膨張の拠点 九州・沖縄
林　博史編　小倉・熊本・佐世保・知覧・長崎・沖縄…。軍隊はそこに何を残したか。戦後沖縄にも言及。

自衛隊史論
政・官・軍・民の60年　3000円
佐道明広著　問われる防衛政策と自衛隊の役割。創設60年の歴史を辿り、軍事が果たす役割を問う。

古事記と太安万侶
和田　萃編　『古事記』の編纂から1300年の時空を超えて甦る〝賢者〟の偉業と記紀神話。2300円

日本文学史 小峯和明編 3800円
東アジア・メディア・戦争・宗教・ジェンダー・環境など、テーマで論じるいままでなかった最新通史。

明治絵画と理想主義 植田彩芳子著 4200円
横山大観と黒田清輝をめぐって
明治30年前後の日本画と洋画を、美学的背景から横断的に考察する。（シリーズ近代美術のゆくえ）

吉川弘文館
〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格は税別
PR誌『本郷』定期購読受付中

見過ごすことはできない」と省みている。

しかし、何よりも根本的な原因は、まさに資本の流れを中心に作られている、全世界的な新自由主義の秩序の弊害であることを否定するのは難しいだろう。大学が本来の学術出版に対する財政的支援を減らしながらも、出版部は採算性を求めるという二律背反は、暗黙の強制の下に内在する資本主義の秩序が表面化した一つの「現象」に過ぎない。

同じ誌面で当時の韓国大学教育研究所の所長を務めていたパクゴヨンは、当時の大統領の「大学も産業だ」という発言に対し、「大学出版にとって収益性のない学術書の出版を縮小し、大衆を対象とした教養書に注力してさらに独立採算制の導入を最大の課題とするよう促している。大学は金を使うところであるのに、大学を、お金を稼ぐ営利企業と見る発想は、アカデミズムの萎縮と枯死に繋がる。教育理念の貧困は貧困の哲学に繋がる」と強く批判した。

実際、韓国の大学出版部は「率先半分、要求半分」で二〇〇四、二〇〇五年前後から「大衆との呼吸」を強化しながら、既存の重い学術書を中心にした出版リストに、一般読者の目線に合わせた教養書を入れ始めた。また、大学出版部のブランドとは別に、一般の商業出版社のインプリント方式を真似したファミリーブランドが流行のように生まれたのもこの頃である。このように、過去からの旧弊な雰囲気を刷新するとともに、採算性の強化のために企画された大学出版部の軟性化気流は、いまだに現在進行形である。

これを眺める社会の視線は中立的でもあり、時には好意的でもあるが、大学出版本来の任務を放棄したまま横道にそれているという批判もなくはない。二〇〇四、二〇〇五年当時、「大学出版が見せていた変化は、〈自然な進化〉の程度にとどまっているだけであり、その内部を覗いてみると、構成員のマインドや大学当局のビジョンは全く変わっていない」と言っていたある人文出版の企画者の冷笑的な言及（「学問と現実の間で葛藤する大学出版部」『出版ジャーナル』）も振り返ってみる必要がある。

*

筆者もここで、今まで進められてきた大学出版部の変化と変身の様子が、果たして積極的で能動的であり、実際に目標としたとおりに大学出版部の位相が変わったのか、さらに韓国の読書大衆の底辺を拡大させ、出版文化の基盤を立たせることに貢献したのかを問うてみたい。

実際に韓国の出版界全体と大学出版部の出版の現況を統計的に比較してみることは無意味である。二〇〇九年現在、約七〇大学程度に達していた韓国大学出版部協会の会員大学全体が韓国の出版界（コミックスと児童書、学習参考書を除いた単行本市場）で占めている割合は、新刊の点数では三・六パーセント、部数では二パーセントと極めて低く、全体の売上の割合も二・五パーセントに過ぎない。また二〇〇七年と二〇〇八年にはそれぞれ発行点数が五二種、七一種

であったファミリーブランドの本も、二〇一一年には一一〇種と増加の傾向にあるが、全売上額は約二五億ウォンで、まだ相対化して客観的に評価できる段階でない。

したがって、少なくとも現段階から大学出版部の構成員に要求されるのは、「もう一度」根本的に態度の変化をすることである。目に見えなければならない実績主義の沼にはまって真正性を喪失してもいけないだろうが、市場主義の下に置かれた大学社会の現実を前にして、母体大学に向かって「我々は崇高な学術出版の道を行くので財政的な支援をしてくれ！」と言うことや大学当局の行政の効率化方針によって人員と予算削減がされているのに「むやみに増員を要求すること」も、ナイーブな発想であろう。むしろ国家機関や文化財団などで運用する出版事業や予算、もしくは公的基金を手配したり、出版人の専門性教育に力を入れて多様化する出版環境に合わせた個人的な力量を強化したりするほうがより効果的であろう。

しかし、それにより確保される出版部自体の予算と人員（＝出版の専門性教育）、発生する収益とコンテンツは、誰からも干渉されてはならない（＝収益は再投資されなければならない）。これは母体大学の当局との関係にも該当され、自律権限の下で大学と出版部の関係は再確立されなければならない。過去のように母体大学の傘下で落水効果を期待していた時代はすでに遠の昔に過ぎている。

このようなときに必要なのが専門性を基にしたコンテンツの企画力と斬新な広報力を媒介としたマーケティング能力である。これは最も簡単であるが最も難しい、出版の基本的な問題意識でしかない。そうだ、我々は大学だけを空を見上げるように眺めながら、この重要な話題をしばらく忘れていただけである。言い換えると、変化の必要性が外部から発生したのではあるが、変身の可能性は内部から見つけなければならないのだ。

存在の拡張

最近、出版「部」あるいは出版「局」から「出版文化院」

21世紀の資本

ピケティ　長期的かつ詳細なデータで格差の推移を実証。経済議論に変革をもたらす世界的ベストセラー。**山形浩生他訳 ¥5500**

量子論が試されるとき
画期的な実験で
基本原理の未解決問題に挑む

グリーンスタイン／ザイアンツ　現代量子物理学の斬新な実験の数々を語り、量子的現象の本質を説き明かす。**森 弘之訳 ¥4600**

科学・技術と現代社会
［全２巻］

池内了　二歩足歩行から科学者の倫理、エネルギー資源、「STAP細胞問題」まで、現代の危機を知るための百科全書。**各 ¥4200**

いと高き貧しさ
修道院規則と生の形式

アガンベン　法権力の外の生を求めたフランチェスコら托鉢修道士に、大量消費社会を超える思想を読む。**上村・太田訳 ¥4800**

ポーランドと他者
文化・レトリック・地図

関口時正　ショパン、マリノフスキー、カントル、キェシロフスキなど、時代とジャンルを通底する文化空間論集。**¥6600**

**青のパティニール
最初の風景画家**

石川美子　16世紀ネーデルラントに「風景」は誕生した。作品の魅力を明かし、絵画と言葉と文学を結ぶ研究エッセー。**¥5000**

哲学への権利 1
［全２巻］

デリダ　なぜ哲学が必要か。大学とは何か。教師・学生・政府を動かしたデリダの哲学教育論の集大成。**西山・立花・馬場訳 ¥5600**

東京文京本郷
5丁目32－21　みすず書房
tel. 3814-0131 fax 3818-6435（税別）
http://www.msz.co.jp

へと組織改名が行われたところがある。それは出版部自らが望んでいたことでもあろうが、機関の名称の変更が少なくない行政的効果を伴うという点で、母体大学当局の意志が反映されたと見ることができるだろう。

元は出版局であったのが、刊行物の発刊、学内の情報をニュース化する広報の業務、大学のホームページを運営するウェブの業務、写真や映像などのデータ管理業務、ＵＩとデザインを担当する業務へとその領域を拡大し、二〇〇八年に出版文化院として改編した慶熙大学出版文化院の事例がそうである。これは、副総長の直属部署として出版広報部を運用するケンブリッジ大学出版局と似ているが、類似の業務領域を統合して運用することによりシナジーを導く大学内の「ネットワーク」の事例として注目に値する。

出版部（局）は垂直的で従属的な次元の付属機関の一つに過ぎなかったが、出版文化院は水平的なコンテンツのネットワークの一つの軸であり、文化のハブに変身する。これは大学の中で個別に行われていた、コンテンツ・メディア・ＰＲ・デザインなどの業務が共有地点を確保し、融合され「化学的な変身」が行われることにより可能になるのである。出版部の側面から眺めると、単に紙の本＝平面的コンテンツを出版していた環境から、映像まで混合されたデジタル・マルチメディア書籍＝立体的コンテンツの製作と広報が可能になる環境に変化したのである。そして、その際に求められるのが次元の異なる良質のコンテンツが生産できる「コンテンツの企画力」である。

「化学的な変身」は、母体大学と出版部との関係が再設定される未来的現象の予見なのかもしれない。もちろん異なる角度から観察するとき、これは大学本部が主導した構造調整の一貫としてその意味が縮小される可能性もあるだろう。しかし、業務の効率化の側面から部署の統廃合が多い現在の状況で、その従属性の程度が激しい小規模の付属機関である大学出版部の場合、予防という側面からもこのような空気の変化を直視する必要がある。

また大学内でパブリッシングの当為を持つ研究業績が生産される限り、出版部の存立の根拠は消えないはずなのであり、立体的なコンテンツの企画と政策のキーを離さずに出版部が能動的な変身を主導するのであれば、一つの潜在的なコンテンツのストレージ空間である大学で、その生産のタスクフォースが出版部である可能性もあるのだろう。なぜなら、出版部の編集者こそがコンテンツ生産の一次著者である教授や研究員と最も近い距離で会い、共感し、一緒に呼吸し、ときには積極的に批判もする、能動的な人材であるからである。

＊

筆者は本稿を準備しながら大学と出版部の間の既存関係を克服する必要性を感じながらも、その実効性には多くの疑問を持っていた。組織と規模の面で母体大学に対する出

版部の従属性（依存度あるいは大学本部の干渉度）が予想以上に高く、出版の外的環境も単純な状況ではないからである。しかし、実際の出版部の業務の相当の部分はすでに伝統的な範囲を超えており、母体大学に付属された補助機関としての位相が変わらなければならない理由は充分にある。

今まで出版部は「コンテンツのアーカイブ」の役割に貢献してきた。たとえば、本を通して成果を整理して編集し構築する「学問のコーディネーター」の役割を果たしてきた。しかし、大学＝universityというすでに統合的環境（diversity in universe＝多様なコンテンツアイテムがあふれる宇宙）では、出版部の編集力、企画力はその受け身性を徐々に克服していく。大学出版部に対する外部からの変化要求は、根本から再び大学出版部を問い直し、変身を考えるときに克服されているのである。したがって、これから出版の専門性を再考することにおいては、企画力の再考につながり、「コンテンツのイニシアチヴ」を確保する方向に向かう必要がある。さまざまな形の本のために推進させる「学問のディレクター」の側面に役割を拡張させていくのである。

このように、学問的後衛〈アーカイブ―構築〉から学問的前衛〈イニシアチヴ―推進〉へ、その存在を拡張させることがまさに最も根本的な大学出版部の変身論の要諦であり、そのとき大学は大学出版部というプラットフォーム〈遊び場〉でコンテンツ生産の「遊び」を行う生成者になる。そこには「母体」や「付属」という関係論の古典的な表現は必要でない。ただ、絶え間なくその関係が拡張される生成の存在論があるだけである。

魚〈鯤〉が皮膚を裂きながら鳥〈鵬〉に変身するとき、あるいは鳥が卵を割って出てきて自分の世界を変身させるときに伴われる忍耐と苦痛は既知の事実である。

＊本稿は第三二回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーにおける発表を再構成したものである。

藤原書店

岡田英弘著作集5（全8巻）
現代中国の見方
軋轢高まる日中関係をどう見るか。岡田史学の眼でこそ見通せる、現代中国の真実。〈月報〉古田博司ほか　4900円

日韓関係の争点
小倉和夫／小倉紀蔵／小此木政夫／金子秀敏／黒田勝弘／小針進／若宮啓文　高銀=監　小倉紀蔵・小針進=編
左・右の枠組みを超える。　2800円

幻滅
外国人社会学者が見た戦後日本70年
R・ドーア　「親日派」社会学者が、なぜ「嫌日派」に変貌したか？ 今や違和感ばかりの国、日本。　2800円

知識欲の誕生
ある小さな村の講演会 1895-96
A・コルバン　資料のない歴史を書き、人々の知識欲の開花の瞬間を捉えた問題作。築山和也訳　2000円

不知火おとめ
若き日の作品集 1945-1947
石牟礼道子　未発表処女作「不知火をとめ」（小説）を含む、新発見の初期作品群。　2400円

世界の街角から東京を考える
青山俊　元東京都副知事の著者が、欧米・アジアの約50都市を鏡として、東京の魅力と課題を多角的視野から浮彫る。　2500円

汝の食物を医薬とせよ
"世紀の干拓"大潟村で実現した理想のコメ作り
宮崎隆典　日本農政の未来への直言を余すところなく記す。　1800円

月刊 機　B6変32頁　12月号　No.273
アラン・コルバン／大田昌秀／橋本五郎／いではく／山崎陽子／山田登世子／岡田英弘／宮脇淳子／加藤晴久／尾形明子／大沢文夫ほか
年間購読料2000円（送料込）◎見本誌・ブックガイド呈　＊表示価格税抜
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013　TEL03-5272-0301
ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

日本における状況と、ミッションの「集合的な遂行」

――玄尚澈先生へのコメント

角田光隆
（東京大学出版会）

日韓大学出版部の同時性

玄尚澈先生の「強要された変化なのか、能動的変身なのか」は、その状況分析、可能性の示唆、いずれについても日本の大学出版部の課題と大きく重なります。もしかすると日本のほうが事態は深刻かもしれません。

母体大学との関係で、韓国で「出版文化院」として積極的な（可能性を持つ）改組がされる一方で、日本では出版部が「収益事業から（教育）補助事業」へと形態を改編するなどの例が相次いでいます。これまで本の売り上げで資金を得ることを運営の前提としていたのが、ついに成立しなくなり、母体大学のより直接的な財政的・行政的監督下に移行するようになる。国立大学を中心に、設立当初からそうしたものとして出版部が新設されることが多くなりました。

ここ数年、私たち出版部の職場の日常的感覚において、母体大学の存在感は増しています。この存在感を、「財源の依存」は不可避としても、「人事・制度的な窮屈さ」「運営上の圧力」ではなく、新しいパートナーシップにすることができる条件を、玄先生は追究しています。

まだある「変化を強要するもの」

日本の出版部の変化を「強要」している主な要因は、日本の出版市場の縮小と、大学生人口の縮小です。かつての豊富な読書人口・学生人口に支えられた独立採算性（収益）が得られないとすれば、それを代行するのは各大学、政府系機関（日本では「学術振興会」の「研究成果公開促進費」など）、民間財団（「日本生命財団」や「末延財団」など）の刊行助成金を本ごとに得るか、そうでなければ出版活動や組織運営のコストを母体大学にもってもらうしかありません。

また、大学生人口の縮小は、出版部にとっては教科書などの販売額の低下を意味しますが、なにより母体大学にとっては大学間の競争の激化を意味します。そこで大学出版部には、教員や学位取得者の業績公表を活発にすることや、国際的情報発信力が期待されたりします。

たびたびこの日韓セミナーでも議題となっている「書籍の電子化」も、日本の大学出版部にとっては読者の要望というよりは、国家や大学の「電子化振興」の掛け声に煽られているようなところがあります。しかし、二〇一四年度から全国の大学で博士論文を各大学の「機関レポジトリ」で公開されることが義務づけられたりするなど、大学のほうが主導する

電子的情報発信の流れは急です。各出版部は、書籍として刊行できる論文については予め著者と契約を結んで公開を回避したり、既刊書のデータを若干の対価であえて「レポジトリ」に提供し、紙の本の売上をも結果的に向上させる「積極策」によって対応しています。

各出版部のミッションを集合的に遂行する

いま日本の大学出版部は、母体大学に新たに「出会いなおしている」といえます。大学の期待は、建学・運営の精神や、規模などによって、それぞれが全く異なります。それぞれの期待に応えるため、日本では「自分の大学出版部」の新設が相次いでいます。既存の出版部にも日々新たな要請が寄せられています。しかし、その要請に応えるには、個々の出版部はあまりに小さい存在です。

そこで、日本大学出版部協会ではいくつかの試行をはじめました。日本の大学は生涯教育・社会教育の拠点という性格も強く持ちつつあり、出版部にも一般読者に向けた訴求力を持つことが期待されています。しかし、これを大部数の販売を前提にした教養書（＝ポピュラーな本）の刊行という形で行う体力は多くの出版部にはありません。協会では、昨年の創立五〇周年の記念事業の一環として、一般の聴衆を対象に一線の研究者が最先端のテーマを分かりやすく語る講演会を行い、その成果を二冊のブックレットとして刊行しました。

また、アメリカの大学出版部でひろく行われている書籍ごとの「論文査読（peer review）の手配」「資金調達（fund raising）」を、小規模の出版部で行うことは非常に困難です。日本大学出版部協会は、英米法を中心とする書籍に一〇〇万円以上の補助を毎年行っている末延財団と提携を結び、各出版部（と一般出版社）が応募した論文の査読を協会が手配し、協会は査読手配料を、査読を勝ち抜いた出版部は助成金を、それぞれ得る事業を今年からはじめました。

そして、国際的発信です。営業部会の主導により、昨年英文の図書カタログ *Books from Japanese University Presses* を発行し、大変な好評を博しました。そうしたカタログはフランクフルト国際図書展や、世界最大のアジア研究学会である Association of Asian Studies（AAS）の年次大会などで配布されています。日本語の本がほとんどですが、大学出版部の本が世界に通用するものであることを実感する嬉しい機会でした。

大学出版部協会の組織強化

日本の大学出版部協会は、こうした「出版部のミッション（の一部）を集合的に遂行する」ための組織強化策として、今年から協会加盟の要件（刊行実績）を一部緩和した「準会員」制度を設けました。形態の違いにかかわらず、多数参加していただければと思います。

日本の大学出版部全体で「集合的な経営力」「集合的な編集力」「集合的な販売力」を確保することで、より多様化し、より難しくなるミッションに対応していきたいと考えています。

特集＊大学と大学出版部の連携

大学、社会との新しい関係——「知」を繋ぐショセキカプロジェクト

川上展代（大阪大学出版会）

二〇一四年二月一四日、『ドーナツを穴だけ残して食べる方法　越境する学問—穴からのぞく大学講義』（大阪大学ショセキカプロジェクト編）が発売となり、同年一二月現在で第五刷と、非常に好調な動きを見せている。同書を上梓した学生・教員・大阪大学出版会の三者コラボ出版プロジェクト「ショセキカ」の歩みを振り返り、大学出版部としての新たな試みをご紹介したい。

アクティブラーニングと大学出版部

二〇一二年春、松行輝昌先生（学際融合教育研究センター准教授）と中村征樹先生（全学教育推進機構准教授）、服部憲児先生（同、当時）のご発案で、大阪大学の学生と教員、出版会の三者が一体となって大阪大学の知を社会に魅力的にプロデュースする本をつくる「大阪大学ショセキカプロジェクト」が発足した。同年秋には授業「本をつくる」を開講し、書籍の企画立案から出版決定までの過程を教育活動として実践した。シラバスに掲載されない急な開講、しかも最も遅い一八時開始にもかかわらず、文理満遍なく三〇名以上の学生が集まった。当初は、学生たちがすでに開講されている授業の中から書籍化に適したものを選び企画化することを目標としていたが、学生たちからの希望で、学生が自ら、そして一から企画を立てるということになった。嬉しい誤算である。二週間で四つの企画案（講義を元にした企画「震災の知、復興の知」、「日中関係を留学生と共に考える」、学生発案企画「教授、本気出します」（異分野の教員同士による雑学企画）、「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」）が立ちあがり、授業内で後者二案に絞られたのち、当会出版委員会に提出したものの、学生に対しても手加減のない評定が下され、あえなく再審議となってしまった。企画を「ドーナツ……」に絞って再挑戦した二〇一三年三月、つ

いに出版が認められたのである。

我々がこの期間に行ったことは、教員各位と協働した授業運営と、学生と協働した新企画立案に分けられる。前者については、母体大学の正規科目全十五回のカリキュラム策定から全面的に携わり、自ら講師として出版に関する講義を行う、実務家（デザイナー、取次、書店、新聞社等の関係者）をゲスト講師として招聘する、企画立案や発表に関して学生への指導を行うなど、教員によるそれとは異なるタイプの授業を運営した。ビジネスの現場に直接関与できる機会として将来の就職活動を見据えた期待からの受講希望も多く、積極的かつ継続的な参加姿勢が見られたことからも、学生のニーズに合致した授業であることを実感できた。また、学内外を問わず各メディアから授業運営自体に関する取材が続いたことも、その独自性を評価されたものと考えられる。後者については、執筆候補者の情報、関連研究分野の紹介、執筆依頼のノウハウなど、当会が持ちうるリソースの提供と授業への中心的な参画が奏功した。この両面を合わせて、大学教育における新たな潮流として近年謳われている取り組み「アクティブラーニング」の一端を担ったものと評されている。

母体大学への寄与を大きな使命として掲げる大学出版部において、研究成果の発信としての出版のみならず、教育活動の側面からの貢献と協働を達成できたことは、母体大学および研究者との新たな関係性構築への第一歩となったと考えている。また、翻って出版事業に関しても、印税の一部を「大阪大学未来基金」に寄付する等、母体大学に対する様々な形での貢献や連携の強化が、著者との関係づくりの土壌にも繋がっていると実感している。他方で、これまで読者としての立場にあった学生と協働することで、彼らの書籍に対するニーズや知的関心の潮流、様々なＩＴデバイスを取り入れた学習環境を直接調査することができ、今後の出版事業に関する貴重な検討材料を得られたことも付記しておきたい。

多角的・総合的なコラボレーション

出版決定後は、授業の参加学生を中心とした有志活動としてプロジェクトが本格始動となり、出版に至るまでミーティングを毎週重ねて進行した。学生が集まりやすい夜間に設定されたミーティングは、議論が白熱して長時間に及ぶこともあったが、学生たちの妥協しない姿勢と責任感に応え、舵取りに奔走した。執筆依頼から校正まで、普段は編集者がほぼ一人で行う作業を効率よく学生たちに割り振ること、しかも主体性と意欲を持って取り組めるような教育的配慮を欠かさないこと、著者に対しては管理責任者として応対しつつ、学生たちには議論しやすい親しみやすさを保つこと。通常業務と並行した長期プロジェクトのため、その塩梅に苦心した。

なかでも印象的なのが、原稿整理である。原稿一本につ

き必ず文理双方含めた学生数名で読み合わせを行ったのだが、学生の専攻分野によって意見の方向性が異なっており、原稿整理の方針について激論が交わされたのである。例えば、数学に関する章では〈次元〉の概念についての理解と感覚が文理で劇的に異なっており、著者が提示した四次元でドーナツを食べる方法の妙味について応酬が繰り広げられ、新たに「解説」を付すこととなった。一方、文系研究者の原稿では、修辞的な文章に慣れない理系学生の意見を踏まえて、簡潔な文章構成となるように抜本的な修正案を作成した。期せずして、専門性の違いを超えた知のあり方への意識を共有する機会となったのである。学生によるこうした修正依頼は、妥協も遠慮もなく、責任者として思わず介入したこともあったが、幸いにも執筆者各位は快く、しかも新たな知的刺激として応じてくださった。

当然ながら、学生たちの姿勢は一貫して読者・学生目線であった。著者・教員である研究者たちに様々な要求を行いながら、作り手としての立場を学んでゆく。当初、私の指導を仰いでいた学生たちが本領を発揮できるようになったのは、この頃からだったように思う。社会での研究者イメージを刷新すべく、著者のポージング写真を掲載したり、学内の研究分野を網羅すべく外国語学部の研究者を巻きこむ方法を考えたり、レイアウトを工夫したり、ドーナツを手に持ったときのようなブックデザインにしたりといったことは、すべてプロジェクト全体の自由闊達な議論の中から生まれたものである。こうした多角的な立場からの試行錯誤の過程そのものがプロジェクトの本質であったとも言える。よりわかりやすく、読みやすく、たのしく。学生たちが編集に挑む姿勢は、本づくりの初心を純粋に体現したものであった。こうして、通称「ドーナツ本」は世に送り出されたのである。

発信力・話題性の強み

プロジェクトのもう一つのハイライトは、多面的な販促活動である。まずは刊行に先駆けてプロジェクト自体に注目を集めることを主眼として、コラボレーションの多面性を生かしたストーリー提示を心がけた。前述のアクティブラーニングに加え、学生主体のユニークな出版活動としての側面、そして、大阪という地方性を敢えて強調した発信戦略である。

学生に焦点を当てた販促活動では、ユニークな大学生像として、ＮＨＫ「すイエんサー」出演等、受験生に向けた進学情報の面から取り上げて頂けた。また、アクティブラーニングでの教育効果のほか、書店ウェブサイトの企画立案、他大学の学生団体との交流など、サイドストーリーとしての広がりも有効な発信材料となった。また、敢えて局地的に狭く深く発信することにこだわり、在阪の新聞社や書店、ＦＭラジオ局を巻き込んだ濃密な関係を築くことで、刊行前から応援団のような厚いご支援を頂くことがで

きた。結果的に、書店で開催した発売イベントを契機として各新聞社、書店への全国的な大展開に繋がったことは、こうした狙いが奏功したものと考えている。また、大阪大学広報室との連携により、特色ある大学活動としてプレスリリースを展開するなど、母体大学自体の広報活動にも寄与することができた。さらにもう一つの局地性として、WEB上でのプロモーションも非常に大きな成果をもたらした。本書のタイトルがWEB上での話題を元にしたものであることも相まって、SNSや書評サイトHONZ等で多数取り上げられ、連動して種々の波及効果も見られた。

そして、刊行後は、書籍本体への評価も加わり、中高生を中心とした層に向けた教育メディアからの取材が顕著となった。大学での学問への入門書あるいは新成人に向けた教養書といった位置づけで推奨して頂くことも増え、多様な角度から継続的に注目を集めうる潜在力を持ち合わせたプロジェクトであること改めて実感した次第である。

大学出版部としての新たな挑戦

担当教員の中村征樹先生が、本書のまえがきでこのような言葉を書かれている。「「ドーナツの穴」をめぐって格闘する姿を通して、学問とはどういうものかを伝えたい」。学問がもつ本来的な魅力の一つは、「考えることはたのしい」である。エスタブリッシュとしての知ではなく、現在進行形としての知を社会に魅せることが、本書と本プロジェクトの大きな目標でもあった。本年七月の公開共催シンポジウム「知をひらく、知をつなぐ―『知の技法』から二〇年」（東京大学福武ホール）にて、『知の技法』（東京大学出版会）編者の小林康夫氏とプロジェクトの面々が「いま、大学における知」について議論を交わせたことは、まさに越境する知的交流としての意義を持ち、プロジェクトの集大成として位置づけられる。母体大学とのより良い関係性のあり方を模索し、大学と社会とを結ぶ学術コミュニケーションの責任と気概をもって新たな挑戦を続けていきたい。

有斐閣 出版案内（価格は税別）
東京・神田・神保町2/Tel:03-3265-6811
http://www.yuhikaku.co.jp/

現代韓国を学ぶ
小倉紀蔵編
有斐閣選書 2,400円
韓国に興味を持っている人もそうでもない人も必読の1冊！

現代日本の「社会の心」
計量社会意識論
吉川　徹著
四六判 2,300円
「総中流」や「格差」などの社会の変化を計量社会学から検証。

スケープゴーティング
誰が，なぜ「やり玉」に挙げられるのか
釘原直樹編
A5判 2,600円
非難のメカニズムを実証研究から解明。

計画の創発
サンシャイン計画と太陽光発電
島本　実著
A5判 5,000円
経営史と組織論を架橋する力作。

大学生のためのキャリアデザイン入門
岩上真珠・大槻奈巳編
A5判 1,800円
「自分らしく」生きるための設計図を描く。

◉図書目録送呈◉

命の形 | 形の命

Lives of Form | Form of Lives / No. 02

イメージの力とは
如何にジャンプするかにある
例えば目標が10であるとしたら
成るべく5、6と
目標に近いところへジャンプする
1から4までは、これまでの
知識の貯えから引き出せる直感で
瞬時に解決できるはずだ
5、6からスタートすれば
当初の目標であった10をも越えられる
（何時も1から始める人がいる）

残像は精神の影

神秘は、あらゆる精神活動の原動力なのだ
芸術は神秘を暗がりに置こうとする
科学はそれに光をかざして
神秘でなくすことを使命とする
と、誰かが言っていた。

光を描くために影を描く

ミケランジェロの彫刻を見れば
彼は大理石の魂の中に
完璧な像が見えていた

大理石の中に
天使が見えたので
自由にしてやろうと
彫り続けた
Michelangelo

ミケランジェロ

なぜ、この形や色が美しいと感ずるのか
美しさとは何処からくるのかを知りたいと思う
それは私たちが自然の中で生きてきた
経験則から判断されることなのだと思う
美は元来自然界の中に存在していたものである
人間がつくり出した美しい造形も必ず
自然界の中に、その手本を見出せる

リアルと……ヴァーチャル

実と……虚

ヴァーチャルが……実

リアルが……虚

現代はそんな時代

まねる→まねぶ→まなぶ
学ぶことは真似ること
真似るものは
大旨君の考えよりも優れている
上辺のことではなく
その本質を真似ることが
大切である
若いときは言葉を覚えるように
真似することが学ぶことになる
やがて自分の目指す
個性のある未来が開けてくる

概ね、真理は少数派に宿る

昨日まで正しかったことが　ものごとに馴れることも必要
今日も正しいとは限らない　但しその精神には馴れるな
真理は絶対的なものではない　精神は絶えず新鮮で
相互の関係性の動体の中にある　なければならない

個人の中で全て
完結できるのであれば
共有すべきシステムは育たない

合理的なシステムとは絶えず
周囲との関係性の中で
確立されている

デザインは

手の道具

眼の道具

耳の道具

皮膚の道具

全て身体の延長線上にある

中核を研究すること

デザインは個人のものではない
社会で共有するものである
デザインは個人のものである
社会と隔絶するほど価値がある

私は50年前に、杉浦康平先生の弟子になった。今でもデザインの仕事を続けている生きた化石。

中垣信夫｜グラフィックデザイナー
Nobuo NAKAGAKI｜GraphicDesigner

大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

第6回理事会・部会・懇親会の開催

定例の年末例会が、一二月五日に霞が関・東海大学校友会館で開かれた。新体制になって二年目になる理事会では、協会ウェブサイトの運営、協会の広報をどう機能させるか、などが議題に上げられた。いずれも今後は事務局が運営主体となって、技術的人材や担当理事と連携しながら動いていくようになる。また黒田理事長から来年度予算の策定スケジュールが提示され、年明けにも各概算要求の取りまとめが行われることになった。八月に中国・北京で開かれる国際図書展参加のための予算も盛り込まれる予定で、これは次年度の国際活動の柱の一つになる。夕刻からの懇親会では、中国大使館の文化担当書記官・馮樹龍氏からご挨拶をいただき、日中文化交流の意義や、永く日本で仕事をしてきた思いなどが真摯に語られた。今回はこれまでにない百名という多数の出席があり、ロビーに飾られたツリーのLEDと、都心の空に浮かぶ満月の明かりを外に、定刻をオーバーして賑やかな歓談が続けられた。

×月〇日

この夏に日韓セミナーを開いたときは、地元富山のコンベンション事業補助金のお世話になったのである。この制度は外国人が参加するときは助成が厚いというインターナショナルなもので、県では観光課が、市は観光振興課が担当している。助成対象は学術・文化的な会議（コンベンション）に限るとあるが、終わったあとは、富山の風光と料理をどうぞと言われているようで、参加者の中にはすっかり富山のファンになった者も少なくない。

地方の衰退が取り沙汰されてから久しいが、ここにきて異変というか、わずかに抜け出たようなところもある。たとえば創意にみちた和風ベンチャー農業とでもいうようなビジネスモデルが立ちあがっている。それがふるさと納税制度と結びついたりして、想外の広がりをみせている。信州小布施にひろがる「まちじゅう図書館」なんかもちょっと面白い。何年か前に電子書籍貸出サービスで話題になった都内の図書館などとは一味違うのである。口コミ、ユニークさ、非管理、清廉といった活力のコンセプトがうかがえる。いま喧（かまびす）しい道州制はたしかに合理的な行政区割であるけれども、地方再生の単位としてはどうしても四十七都道府県にこだわりたい。四十七士がんばれと言いたい。次期の協会研修会もどこか地方のいい場所で、との声が早くも上がっている。

北海道大学出版会

▼公益財団法人札幌市公園緑化協会編『**まちづくりのための北のガーデニング ボランティアハンドブック**』（A4判・四五〇〇円）ガーデニングボランティアに必要な知識と技術を多岐にわたり紹介した基本図書。「さっぽろ緑花園芸学校」の講師陣が執筆。オールカラー版。

▼岩下明裕編著『**領土という病―国境ナショナリズムへの処方箋**』（四六判・二四〇〇円）研究者とジャーナリストが集い、日本の領土問題を熱く討議。国際政治の動向と国境地域の実情を見定める。

▼大野裕司著『**戦国秦漢出土術数文献の基礎的研究**』（北海道大学大学院文学研究科研究叢書27）（A5判・七二〇〇円）戦国秦漢時代の墓地から出土された、占術の実践書たる術数文献を読み解き、中国古代思想史のなかに位置づける。

▼金子勇著『**日本のアクティブエイジング―「少子化する高齢社会」の新しい生き方**』（北海道大学大学院文学研究科研究叢書28）（A5判・五八〇〇円）少子高齢化社会の構造と機能を分析し、高齢者のライフヒストリーを健康・生きがいの観点から検証。政策提言にも富む。

弘前大学出版会

▼村田俊一著『**T・S・エリオットの思索の断面―F・H・ブラッドリーとニコラウス・クザーヌス**』（四六判・二九二頁・四二〇〇円）エリオットの思索の断面に流れている「全体」の概念をデカルト以前の中世に見出だし、さらには「対立物の一致」で有名な一五世紀ドイツの神秘主義者ニコラウス・クザーヌスまで遡る。

▼弘前大学学長秘書室編『**大学と地域と人々と―弘前大学第十二代学長　遠藤正彦講演集**』（A5判・三〇六頁・三八〇〇円）数々の講演から、大学のリーダーとして日々奮闘されていた様子が見える。

▼髙瀬雅弘編『**山田野―陸軍演習場・演習廠舎と跡地の一〇〇年**』（A5判・九二頁・九〇〇円）弘大ブックレットシリーズ。陸軍山田野演習場と演習廠舎について、「モノ」と「人」を通して人々の記憶を集め、保存を試みた一冊。

▼吉岡良雄・長瀬智行編著『**確率・統計入門**』（B5判・一〇八頁・一二〇〇円）大学初年度レベルの「確率・統計」に関するテキスト。ソフトウエア開発に有用なデータ解析手法も。

東北大学出版会

▼高倉浩樹・山口未花子編『**東北アジア学術読本4　食と儀礼をめぐる地球の旅―先住民文化からみたシベリアとアメリカ**』（四六判・二二六頁・二五〇〇円）「食と儀礼」という人間の本質にかかわる事象を文化人類学的観点からとらえ、シベリアと南北アメリカに暮らす先住民の歴史・文化・生活の中に現代世界にも通じる普遍性を探る。

▼フィリップ・ウッド著／奥井誠訳『**国際金融の法と実務**』（B5判・六三八頁・六〇〇〇円）詳細な解説と豊富な判例をとおし、世界的な視点で比較法の立場から国際金融の全体像を描く。オックスフォード、ケンブリッジ等、英国の名門大学で使用されるテキストの翻訳版。

▼吉葉恭行著『**戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程―科学技術動員と大学院特別研究生制度　東北帝国大学を事例として**』（A5判・三五八頁・四〇〇〇円）太平洋戦争下の日本において、大学院学生はどう位置づけられ、何のために研究したのか？　戦時の大学院制度を、大学史・科学史・科学技術政策史の切り口から検証する試み。

流通経済大学出版会

▼ディヴィッド・K・ヘイズ、アリッシャ・A・ミラー著／中谷秀樹訳『**ホスピタリティー産業のレベニュー・マネージメント**』（B5判・五〇四頁・二七〇〇円）本書は世界で初めて編纂されたレベニュー・マネージメントの教科書である。ホスピタリティー産業の単なる価格設定技法の解説にとどまらず、事業の本質や取引の倫理を基本とし、レベニュー・マネージメントの普遍的価値を啓蒙するものである。ホスピタリティー産業において、海外の洗練された戦略を理解し、発展させることが肝要となる。レベニュー・マネージメントとは、ホスピタリティー産業特有の供給制限を伴う限りある商品やサービスを最適な顧客に、最適な場所で、最適なタイミングで提供するための最適な価格設定と売上の最適化戦略である。独立した新しい学問の一分野で、一九八〇年代の航空会社のイールド・マネージメントに始まり、一九九〇年代からホテルの価格設定に取り入れられ、供給制限と在庫の消滅性を伴う商品やサービスを取り扱う産業全般で発展している。顧客中心主義がその根本理念である。

聖学院大学出版会

▼窪寺俊之編著『**愛に基づくスピリチュアルケア―意味と関係の再構築を支える**』〈スピリチュアルケアを学ぶ5〉（A5判・二二二頁・二三〇〇円）第Ⅰ部にはホスピスケアの諸実践の報告、山形謙二「新しい人生の希望―ホスピス医療の現場から」、山崎章郎「ホスピスケアの目指すもの―ケアタウン小平の取り組み」、川越厚「在宅ホスピスケアと医の原点」を、第Ⅱ部にはスピリチュアルケアの普及を目指す二論文、小森英明「スピリチュアリティの架橋可能性をめぐって」、窪寺俊之「スピリチュアルアセスメントとしてのヒストリー法―『信望愛』法の可能性」を所収。

▼河島茂生編著『**デジタルの際―情報と物質が交わる現在地点**』（四六判・三六四頁・二〇〇〇円）徹底的ともいえるデジタルの拡張が続くなかで、社会的な集合性や個人、身体はいかにあるのか。デジタルに捉えられない領域はあるのか。デジタルの幻惑から抜け出すために、本書は、「情報／物質」「集合性／個別性」の軸を交差させ、それらの領分の様相に接近する。

聖徳大学出版会

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『**改訂版 一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなで進める特別支援**』（A5判・二一八頁・一五二八円）特別支援教育について子どもの理解と指導・支援に必要な基礎知識を初学者にも分かりやすく解説。全体を一二章構成。幼児期及び児童期に焦点を絞り、初期段階における適切な指導・支援を行うためのノウハウが充実している。

▼村井靖児著『**音楽療法を語る―精神医学から見た音楽と心の関係**』（四六判・二八〇頁・二〇〇〇円）

▼森彪著『**医における癒し―人間関係の形成のなかから**』（四六判・二八〇頁・二〇〇〇円）

▼川並知子著『**さくら紙あそび**』（B5判・六四頁・六五〇円）

▼川並知子・広瀬知里共著『**子どもと親のためのおりがみアイディア**』（B5判・一二八頁・一五〇〇円）

麗澤大学出版会

▼シルヴィア・ヴァン・カーク著／木村和男・田中俊弘訳『**優しい絆―北米毛皮交易社会の女性史一六七〇―一八七〇年**』（A5判・三五二頁・四〇〇〇円）北米（カナダ・アメリカ）社会史・女性史を大きく変えた古典的名著の完訳。北米西部の毛皮交易社会におけるインディアン、メイティ（混血）、白人女性の関与を描き、彼女たちが果たした役割と社会が変容する過程を解き明かす。

〈目次〉序／第Ⅰ章　白人到来／第Ⅱ章　現地の慣習／第Ⅲ章　わが社の優等社員／第Ⅳ章　仲介者としての女たち／第Ⅴ章　現地の娘たち／第Ⅵ章　私の唯一の慰め／第Ⅶ章　完全にイギリス式のマナー／第Ⅷ章　愛らしく優しい異邦人／第Ⅸ章　「血」の問題／第Ⅹ章　われらの失いし世界／訳者あとがき／注／参考文献／索引／ほか

慶應義塾大学出版会

▼井筒俊彦著『**井筒俊彦全集　第八巻　意味の深みへ**』（四六判・五七六頁・六〇〇〇円）一九八三年から八五年の著作群。思索の成熟期を迎えた井筒が、現代思想をも射程に入れ、デリダ論、遠藤周作との対談、空海の言語哲学論など、独自の東洋思想を展開。豪華執筆陣（玄侑宗久、野村喜和夫、島薗進各氏）による月報付。

▼田上雅徳著『**入門講義　キリスト教と政治**』（四六判・二九六頁・二四〇〇円）キリスト教は、古代から現代まで現実の政治や社会をどのようにとらえ、教義や教会制度の変容を迫られ、逆に現実の政治に影響を与えたのか。「終末意識」「共同体」「契約」「ナショナリズム」等をキーワードに語る、良質な入門書。

▼西澤直子著『**福澤諭吉とフリーラヴ**』（四六判・二八〇頁・二八〇〇円）近代の「家」と家族はどのようにあるべきか。この問題に関して、「自由愛情（フリーラヴ）」の世界を理想としながらも、現実には「偕老同穴（かいろうどうけつ）」を説いた福澤諭吉の真意はどこにあったのだろうか。福澤のあらたな側面に迫る。

産業能率大学出版部

▼赤松育子著『**決算書でわかる〝伸びる会社〟と〝あぶない会社〟の見分け方**』（A5判・一八〇〇円）。会計のプロは会社の数字をどのように見ているのか？その見方、考え方をわかりやすく伝授。「超速・振り返り」で決算書の読み方から簡単にレクチャーしているので、決算書になじみのない人でも安心。

▼山蔦圭輔著／宮城まり子監修『**基礎から学ぶカウンセリングの理論**』（A5判・二四〇〇円）メンタルヘルス対策に必要なカウンセリングの理論について最新の理論を交えつつ、さまざまな事例を用いて紹介した内容で、初心者でもわかりやすい理論書としてオススメです。

▼日沖健著『**ワンランク上を目指すためのロジカルシンキング　トレーニング77**』（A5判・一八〇〇円）ロジカルシンキングについて、「なんとなくわかった」から「自信を持って考え、伝えることができる」へとレベルアップを促すトレーニングブック。

専修大学出版局

▼専修大学編『**専修大学史資料集3　五大法律学校の時代**』（A5判・五六四頁・四八〇〇円）「専修大学史資料集」全十巻の第一回配本。専修大学は、明治十三年、日本で初めて法律科と経済科を併設した大学として誕生した。本書では、四人の創立者の人間像や建学の精神に触れる、大学草創期における史資料を網羅。私立大学黎明期を明らかにすべく、当時次々と誕生した私立法律専門学校（のちの専修・法政・明治・早稲田・中央の五校を「五大法律学校」と称した）に関する史資料も多数収録。新たな視点で日本の近現代教育史にアプローチ。

▼矢澤昇治編著『**「橘由之日記」の研究**』（A5判・二七二頁・三六〇〇円）良寛禅師の実弟が橘由之で、彼は江戸文政期に越後、奥州を旅して三年ほどにわたる旅日記を遺している。本書は、後に私家本として出版されたその日記を収載して、詳細な記述を読みときながら、由之の人物像を掘り下げ、良寛研究にも資するものになっている。越後地区に残る関連資料や墓所の写真、年譜、日記行程譜なども載せている。

大正大学出版会

既刊紹介

▼小峰彌彦・小峰和子『**十三仏の鑑賞と描き方―我が家の十三仏を描こう**』（A4判変型・七八頁・二〇〇〇円）

本書は、「仏画」の描き方や道具・材料について分かりやすく解説した入門書である。制作の過程が視覚的に示され、描画のポイントが説明される。

標題の「十三仏」とは、不動明王・釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩・地蔵菩薩・弥勒菩薩・薬師如来・観音菩薩・勢至菩薩・阿弥陀如来・阿閦如来・大日如来・虚空蔵菩薩であり、本書にはこれら諸尊の白描図と解説も付されている。

玉川大学出版部

▼吉荒夕記著『**美術館とナショナル・アイデンティティー**』（A5判・四一六頁・四八〇〇円）美術館はたびたび国家権力と結びつき、国民意識の形成に利用されてきた。裏を返せば、美術という表現形態は、観る者に強くうったえ、優れたコミュニケーションをもたらし得る。本書では、さまざまな時代や地域における美術館と社会の関係を論じつつ、他者と出会い、開かれたアイデンティティーを生み出す場としての美術館や博物館の可能性を探る。

▼後藤芳文・伊藤史織・登本洋子著『**学びの技―14歳からの探究・論文・プレゼンテーション**』〈YAアカデミック・シリーズ〉（A5判・一五二頁・一六〇〇円）研究テーマの決め方から情報収集の方法、マインドマップや探究マップなどのツールを活用したレポートや論文の書き方、プレゼンテーションの効果的な工夫まで。玉川学園中学三年生の実践をもとに、ラーニング・スキルの「技」を見開き形式でわかりやすく紹介する。中高生だけでなく、あらゆる年齢の人に必要な力が身につく。探究型学習に必携。

中央大学出版部

▼橋本基弘著『**表現の自由―理論と解釈**』（四三〇〇円）表現の自由の解釈は理論に左右される。本書は、営利的言論の問題、規制類型論の問題、集会規制をめぐる諸問題について論じ、表現の自由理論がどのように形づくられ、それが今どのように現実の解釈問題に反映されているのかを解明しようとする意欲作。

▼滝田賢治・佐藤元英編著『**三・一一複合災害と日本の課題**』（三八〇〇円）巨大地震・巨大津波・福島第一原発事故・風評被害という四重の三・一一複合災害に対して、復興財政・生産活動・土地所有権・国際緊急援助・将来ヴィジョンなどから多面的に考察した研究書。

▼P・ヘーベルレ著／畑尻剛・土屋武編訳『**多元主義における憲法裁判―P・ヘーベルレの憲法裁判論**』（五二〇〇円）ドイツ公法学の泰斗P・ヘーベルレの膨大な業績のうち、「憲法裁判」をテーマとして三七年間にわたり発表した諸論稿を、編集・訳出した一冊。基礎理論から憲法裁判所制度、そして世界各国におけるその受容過程を、「多元主義」というキーワードで語り尽くす！

東京大学出版会

▼**UPコレクション**（第Ⅱ期、全八点、四六判、各二一六～四〇〇頁）

ながらく読み継がれてきた名著を新装復刊する、待望のコレクション第二弾。一昨年刊行の第Ⅰ期二〇点に続き、いまなお生命力を失わないロングセラーを精選し、新たに「新装版あとがき」あるいは「補論」「解題」を加えリニューアルを図る。学術を学ぶ愉しみに溢れ、多くの読者の獲得してきた現代の古典が、瑞々しく甦る。

清水博『**場の思想**』（二九〇〇円）
久保田淳『**中世文学の世界**』（二九〇〇円）
前野直彬『**風月無尽―中世の古典と自然**』（二九〇〇円）
小谷汪之『**歴史の方法について**』（二八〇〇円）
椎名重明『**農学の思想―マルクスとリービヒ**』（三六〇〇円）
三輪公忠『**日本・一九四五年の視点**』（二九〇〇円）
村上淳一『**ドイツ市民法史**』（三六〇〇円）
村上淳一『**ゲルマン法史における自由と誠実**』（三四〇〇円）

東京電機大学出版局

▼脇英世著『**スティーブ・ジョブス―青春の光と影**』（四六判・五一二頁・二五〇〇円）世界に大きな影響を与えたスティーブ・ジョブス。彼の生い立ちからアップル社創設までを、家庭環境、育ての母、友人、恋人との複雑な人間関係を交えて、当時の時代背景や技術とともに語る。

▼遠藤薫編著『**間メディア社会の〈ジャーナリズム〉―ソーシャルメディアは公共性を変えるか**』（A5判・三四〇頁・三六〇〇円）近年、世界の多くの国々で宗教や民族の対立などを背景とした政権の不安定化が目立っている。世界の対話の場を開くためのジャーナリズムについて、新たなメディア環境を前提として、いま改めて考えることが必要である。本書は、過去から現在までの世界のジャーナリズムの変化、東日本大震災などの事例を基に、「公共性の新しいかたち」を考える。

法政大学出版局

▼杉田敦＋川崎修編『**西洋政治思想資料集**』（A5判・三三二頁・三二〇〇円）古代から現代までの代表的な思想家五七名を、各分野の第一人者が原典と解説の二本立てでやさしく紹介。好評重版！

▼M・ハワード／馬場優訳『**第一次世界大戦**』（四六判・二六〇頁・二八〇〇円）各国の外交戦略と経済情勢、技術革新の実態のみならず銃後の世論・国民感情の変遷も詳説する。イギリスを代表する戦争史研究者が著した定評ある入門書。

▼U・ベック／川端健嗣＋S・メルテンス訳『**世界内政のニュース**』（四六判・二六二頁・二八〇〇円）福島の原発事故をはじめ、さまざまな危険やリスクに直面するわれわれの世界は、いまどこに向かおうとしているのか。いまここにある危機から来るべき未来の可能性を探る。

▼J・ハーバーマス／庄司信ほか訳『**自然主義と宗教の間**』（四六判、四七〇頁、四八〇〇円）哲学と宗教の関係をめぐる主著。市民による公共的な論争への参加の重要性を論じ、脱超越論化した理性のあり方を問う。著者自身が自らの知的遍歴を語った京都賞受賞記念講演も収録。

武蔵野大学出版会

▼浅川公紀著『**国際政治の構造と展開**』（四六判・四七二頁・三三〇〇円）国際政治の理論から、その歴史的変遷、国際政治経済からの視点、冷戦、国家の役割、外交と国力、法・秩序・正義の確立、安全保障の追及、エコシステムの保存など、国際政治のすべてをこの一冊に集約！

▼佐藤佳弘著『**脱！　スマホのトラブル―LINE フェイスブック ツイッター やって良いこと悪いこと**』（四六判・一六〇頁・一二五〇円）「スマホの危険」や「正しい使い方」について数多く講演をしている著者が、トラブルの事例と対策を、豊富なイラストで解説している。

▼五味政信著『**五味版　学習者用ベトナム語辞典**』（B6変型判・一一五〇頁・八〇〇〇円）見出語八〇〇〇、用例二一〇〇〇。語法、成句、コラムも充実。文型が自然に身につく辞書。

武蔵野美術大学出版局

▼F・スメイヤーズ著／山本太郎監修／大曲都市訳『**カウンターパンチ　16世紀の活字製作と現代の書体デザイン**』（A5判、二二四頁、並製、二色刷、三八〇〇円）「セリフやヘアラインは、なんでこんなに細いんだよ？」とエンジニアに文句を言われた著者は書体デザイナー。即答できない自分に腹をたて、古い文献をひっくり返すものの満足な回答はどこにもない。よし、それなら自分で再現してみようじゃないかと活字製作に挑む。一六世紀の活字父型彫刻師の仕事に焦点をあて、小さな道具・カウンターパンチを再発見することから、果てしない冒険譚が始まる。欧文活字aやCのまんなかの空間、それがカウンターである。この微細なる空間に、誌面の美しさも、読みやすさも隠されていたのだ。体験的タイポグラフィとも言える本書は、デザインに関わる専門家のみならず、文字をつかうすべての人々に向けて書かれた。貴重な資料、魅力的な手描き図版に加えて、専門用語には丁寧な訳注を付した。白井敬尚のブックデザインにより、待望の名著、初翻訳！

明星大学出版部

▼明星大学教職センター編『**教員を目指す君たちに受けさせたい論作文講座―教育の見方・考え方が変わる**』（A５判・一六〇〇円）教員採用試験の論作文攻略技術及び方策を実戦的に示す指南書。採点者の評価の視点はどこにあるか、実際の出題例に即して留意点を考え、試験の対策事例も示している。

▼青木秀雄編『**教職入門―専門性の探究・実践力の練成**』（A５判・一六〇〇円）学校の組織・運営、教育行政、教育法規、さらに社会との関わりなどに触れながら、教員に必須の知識と心構えを解説する。

▼青木秀雄編『**教職実践演習―磨きあい高めあう熱意ある教師に**』（A５判・二〇〇〇円）

関東学院大学出版会

▼バプテスト研究プロジェクト編『**バプテストの教育と社会的貢献**』（A５判・二六四頁・二四〇〇円）本書はバプテストの教育を主題にした論集であり、ドイツ・バプテスト神学教育の他、日本の女子教育を担った宣教師A・H・キダー、C・A・カンヴァース、A・S・ブゼルに関する論考、また東京バプテスト女子学寮の歴史、さらに新生論に基づくバプテスト教育理念など、五人の専門家による貴重な研究成果である。

▼出村彰監修／バプテスト史教科書編纂委員会編『**見えてくる　バプテストの歴史**』（A５判・二三四頁・二一〇〇円）十七世紀、英国初期バプテスト派の誕生から、十九世紀までの発展、その後、米国でプロテスタント最大の教派にまで成長し、日本へも伝えられたバプテスト教会の教会史。出村彰氏を監修者に迎え、共同執筆されたベーシックなバプテスト通史。

東海大学出版部

▼小松貴著『**裏山の奇人―野にたゆたう博物学**』（B６判・二八八頁・二〇〇〇円）博物学への憧憬と好奇心を携え、生きものに魅せられた怪しい男が、近所の裏山から地球の裏まで徘徊する。博物学とは、好奇心とは何だ。昆虫学者が綴るフィールドの「怪」進撃。

▼中島啓裕著『**イマドキの動物　ジャコウネコ―真夜中の調査記**』（B６判・二二四頁・二〇〇〇円）東南・南アジア地域に広く生息し、体は小さく、色が灰色から褐色で、夜行性、肉食目でありながら果実食動物、絶滅の危機に瀕した野生動物のイメージとはかけ離れた謎の多い今どきの野生動物にスポットを当てる。

名古屋大学出版会

▼M・ゲルツァー著／長谷川博隆訳『**ローマ政治家伝**』**第Ⅲ巻「キケロ」**（A5判・五二八頁・五五〇〇円）共和主義の原点とも目されるその思想とは――。本邦初訳。シリーズ全三巻完結！

【好評既刊】第Ⅰ巻「カエサル」、第Ⅱ巻「ポンペイウス」（各四六〇〇円）

▼三牧聖子著『**戦争違法化運動の時代―「危機の20年」のアメリカ国際関係思想**』（A5判・三五八頁・五八〇〇円）「現実主義」対「理想主義」をこえて、米国の戦争違法化思想をトータルに跡づけ、国際秩序の新たな可能性を探る。

▼吉野耕作著『**英語化するアジア―トランスナショナルな高等教育モデルとその波及**』（A5判・二四〇頁・四八〇〇円）英語支配論をこえて、アジアの英語化の生きた姿を、変動するポストコロニアルな社会と地域のなかで捉える。

▼渡邊誠一郎・中塚武・王智弘編『**臨床環境学**』（菊判・三三六頁・三六〇〇円）環境問題発生のダイナミズムを見据え、現場で診断から治療までを一貫して行う新しいアプローチ。その先進的な試みを、理論と実践の両面から初めて解説。

三重大学出版会

▼『**フランス初等教育史―1815～1830**』（A5判、八〇七頁、六〇〇〇円）人間と市民の権利を初めて宣言したフランス。その国の「民衆の小学校」がいかにして作られたかを明らかにしたのが本書だ。教育者・教育研究者の必読文献となるだろう。

〈目次〉序章／第1章　フランス大学の成立と公教育の統轄／第2章　初等教育基本法の制定／第3章　初等教育地方行政制度／第4章　国家とイギリス教育方式の導入／第5章　地方都市における相互学校とキリスト教学校／第6章　新型教育修士会と村の学校／第7章　初等教員資格制度の成立／第8章　1816型小学校体制の樹立／第9章　世俗初等教員養成制度／はしがき

京都大学学術出版会

▼嶺重慎・広瀬浩二郎編『**知のバリアフリー―「障害」で学びを拡げる**』（A5判・二八六頁・二四〇〇円）ようやく制度として大学に根付きつつある障害者支援。その実践から見えてくるのは、「健常者」基準で成り立つ学問そのものの限界だった。「障害」を切り口に初めて見えてくる新たな知が、人間の可能性を大きく拡張する。過去・現在から未来を見据え、新たな知のあり方を発信する。

▼C・H・ラングミューアー、W・ブロッカー著／宗林由樹訳『**生命の惑星―ビッグバンから人類までの地球の進化**』（A5判・七二〇頁・六二〇〇円）ビッグバンによる宇宙の創生から、太陽系の誕生、地球の進化、人類文明の台頭に至る地球一三七億年の歩みを辿る壮大な物語。現代宇宙科学の入門書としても最適。

▼水久保隆之・二井一禎編『**線虫学実験**』（B5判・三四六頁・三八〇〇円）基礎研究でも農業・環境保全でも重要な生物である線虫。発展著しい遺伝子解析など最先端の研究法まで取り入れ、標本作りや分類・同定法から生理・生態学的研究まで、その実験方法を網羅する。

大阪経済法科大学出版部

アジア研究所は主に東アジアを中心とする学術の交流・発展を通じて東アジアの平和と繁栄に貢献することを趣旨として創設され、内外の大学、研究機関との国際シンポジウムを共催するなど、協力関係を築いています。そのアジア研究所研究叢書の既刊書から二点を紹介します。

▼白榮勛著『**東アジア政治・外交史研究―「間島協約」と裁判管轄権**』（四二〇〇円）一九〇九年に日本が清国と締結した「間島協約」と間島地方の朝鮮民族をめぐる日中両政府の交渉過程を検討することによって、当時の日中両国の政策判断と居住朝鮮人の動向を明らかにしようとしたものである。

▼A・コーシキン著・佐藤利郎訳『**大国の攻防―世界大戦における日ソ戦**』（四六〇〇円）ソ連とその同盟国たる米英両国が太平洋戦争にいかなる対応を取ったか、また、ソ連が第二次世界大戦中に対日政策および軍事戦略をどのように展開していったかを分析する。

▼『**北東アジアの平和構築―緊張緩和と信頼構築のロードマップ**』三月刊行予定。

大阪大学出版会

▼三阪佳弘著『**近代日本の司法省と裁判官　一九世紀日仏比較の視点から**』（五三〇〇円）仏法との比較史的観点から日本の裁判官制度を考察。制度史研究及び司法制度改革の議論に新しい視座を提供する▼藤川信夫編著『**教育／福祉という舞台　動的ドラマトゥルギーの試み**』（三八〇〇円）個別事例研究にドラマトゥルギー的分析を適用する▼山上浩嗣著『**パスカルと身体の生**』（六三〇〇円）『パンセ』の主題からキリスト教弁証における人間の身体と生の両義的な価値を明らかにする▼金﨑春幸著『**フローベール研究作品の生成と構造**』（七〇〇〇円）作家の精神的現れである形式を読み取ることが構造を読み解くことという立場から作品の構造分析と肖像を探る▼岡本淳子著『**現代スペインの劇作家アントニオ・ブエロ・バリェホ　独裁政権下の劇作と抵抗**』（三九〇〇円）国家権力、暴力への抵抗を描いた作品は抑圧力をもつ公の歴史、敗者の歴史を伝える▼村岡貴子著『**専門日本語ライティング教育**』（三四〇〇円）大学院レベルの日本語学習者に対する教育実践への課題と展望を提示する。

関西大学出版部

▼佐藤真人著『**均衡経路の不安定性**』（A5判・三五〇〇円）好況や不況は、いつ来るか？　そもそも、それらの交替や景気循環は、なぜ起こるのか？　本書は、このような疑問を出発点に、景気循環と価格による調整機構との関係で、その原因を理論的に追求し、現実を観察する。

▼岩﨑千晶編著『**大学生の学びを育む学習環境のデザイン―新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦**』（A5判・二〇〇〇円）本書は、アクティブ・ラーニングを主軸とした大学生の能動的な学びを育むための学習環境のデザインを構築するための入門書である。理論編では背景・理念・具体的な手法などを、実践編では演習・多人数講義・ICTの活用など授業実践を紹介する。

▼小林剛著『**アメリカン・リアリズムの系譜―トマス・エイキンズからハイパーリアリズムまで**』（四六判・二六〇〇円）アメリカ美術では、周期的に多様な形態のリアリズムが現れては消え、その都度アートの枠組みが更新されている。そうしたリアリズムの系譜を、十九世紀から現代までの文化的背景も踏まえて辿る。

関西学院大学出版会

▼J・H・ベイカー著／深尾裕造訳『**イギリス法史入門　第4版（第Ⅱ部〔各論〕―所有権法史　契約法史　不法行為法史　身分法・家族法史　刑事法史**』（A5判・五九二頁・五八〇〇円）

▼小西砂千夫著『**統治と自治の政治経済学**』（四六判・三四〇頁・二六〇〇円）

▼今田忠著／岡本仁宏補訂『**概説市民社会論**』（A5判・三三八頁・三二〇〇円）

▼土居豊著『**いま、村上春樹を読むこと**』（四六判・一九八頁・一五〇〇円）

▼関西学院創立125周年記念事業推進委員会年史実行委員会編『**関西学院事典増補改訂版**』（A5判・六二六頁・二八〇〇円）

▼中国モダニズム研究会著『**ドラゴン解剖学・登竜門の巻　中国現代文化14講**』（A5判・二三〇頁・一八〇〇円）

▼則定隆男著『**フレームを変えると、世界が変わる―コトバのマジック**』（四六判・一四〇頁・一四〇〇円）

▼山路勝彦著『**大阪、賑わいの日々―二つの万国博覧会の解剖学**』（A5判・三六二頁・三八〇〇円）

広島大学出版会

▼木原成一郎編著『**体育授業の目標と評価**』（A5判・二五五頁・一三〇〇円）学校の学習評価の制度が、二〇〇一年の指導要録改訂で戦後長く続いた「相対評価」から「目標に準拠した評価」に転換した。「目標に準拠した評価」は、教師の指導と子どもの学びを振り返るために有効な情報を提供する役割を期待されて登場した。教師が体育の授業を改善しようとする時に求められる体育の目標と評価とはどのようなものか、授業研究の成果に基づいて提案した本書は、体育授業で「指導と評価の一体化」をめざす教師必読の書である。

〈目次〉第一章　体育科の目標と評価／第二章　体育授業における形成的評価と「真正の評価」の探求／第三章　教えと学びを振り返る体育の授業研究

九州大学出版会

▼住田正樹『**子ども社会学の現在―いじめ・問題行動・育児不安の構造**』（A5判・三八〇〇円）いじめ、学級崩壊、育児不安、教師の指導力問題など、現代社会における子ども観自体の変容に着目し、子どもを巡る諸問題の要因を分析する。

▼山本進『**大清帝国と朝鮮経済―開発・貨幣・信用**』（A5判・七八〇〇円）手工業大国中国と鉱産資源大国日本との狭間で、後期朝鮮の経済と社会のたどった歩みを解明する。

▼円谷裕二『**知覚・言語・存在―メルロ＝ポンティ哲学との対話**』（A5判・五四〇〇円）近現代の様々な哲学者と対峙させてメルロ＝ポンティ哲学の意義と独自性を際立たせながら、身体・歴史・芸術等多様なテーマを手がかりに、世界や人間の根源的真理を現象学的に思索する。

▼麻生太吉日記編纂委員会『**麻生太吉日記　第四巻**』（A5判・一〇〇〇〇円）筑豊の炭鉱業の実態のみならず、地方財閥の発展の過程を余すところなく記した貴重な史料。第四巻は一九二八（昭和三）～一九三一（昭和六）年を収録。全五巻。

ナチュラルヒストリーの時間

大学出版部協会編　A5判／160頁／定価1680円

自然史へ誘う：博物誌から生態学、多様性生物学、ゲノムサイエンス、そして21世紀のナチュラルヒストリーを愉しむ

I. Prologue of Natural History

第1話　自然を記録すること……斎藤靖二

第2話　自然史と本……青木淳一

第3話　日本のナチュラルヒストリー……岩槻邦男

コラム①　動物写真の世界

II. History of Nature

第4話　ノーチラス号が遭遇した大ダコ……奥谷喬司

第5話　マリー・ストープスの2つの顔：日本の植物化石研究事始め……矢島道子

第6話　京都の語り部：深泥池……竹門康弘

第7話　遺跡の土に秘められた情報……松井　章

コラム②　きききみずきん

第8話　遺体で動物学を埋め尽くす……遠藤秀紀

第9話　ダーウィンと魚類学：人々と時代と魚たち……武藤文人

第10話　日本の小鳥飼育文化と鳴き合わせ……小山幸子

III. Diversity of Nature

第11話　サクラソウとマルハナバチ……鷲谷いづみ

第12話　日本列島に人間と野生動物との共生の歴史をさぐる……湯本貴和

第13話　琉球列島の自然史……太田英利

第14話　マンボウと標本……松浦啓一

第15話　分類学事始め：タクソン，タイプ，名前……馬渡駿輔

コラム③　サルにノミはいない？　幻の定説

IV. Story of Nature

第16話　クマ大量出没の謎……大井　徹

第17話　ふしぎの国のアリ巣……丸山宗利

第18話　現代によみがえったインカ時代の狩猟……山本紀夫

第19話　子どもたちと自然教室：干潟で役立つ本や教材……古賀庸憲

第20話　熱帯雨林の林冠アリ……市岡孝朗

第21話　殿様の自然史……松岡明子

第22話　幻のロバと男たち……木村李花子

第23話　食の博物誌：多民族国家のハイ・ティー……周　達生

コラム④　アリジゴクの自然史

V. Epilogue of Natural History

第24話　遺伝子を通した動物との対話……村山美穂

第25話　ゲノム時代のナチュラルヒストリー……西田　睦

コラム⑤　小・中学校図書館は今

特別寄稿：「具体的な人間の日常性」と抽象化された「専門性・科学性」……久塚純一

自然史文献リスト

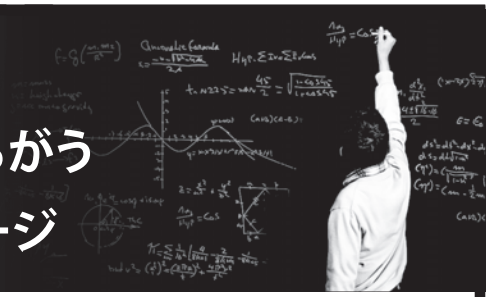
一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

【50音順】2014年12月20日現在

㈱朝日新聞社	〒104-8011	東京都中央区築地5-3-2	TEL 03-5540-7749
亜細亜印刷㈱	〒380-0804	長野県長野市大字三輪荒屋1154	TEL 026-243-4858
㈱アベル社	〒162-0825	東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408	TEL 03-3235-1360
尼崎印刷㈱	〒661-0975	兵庫県尼崎市下坂部3-9-20	TEL 06-6494-1122
㈱ALE	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階	TEL 03-5652-8627
王子製紙㈱	〒104-0061	東京都中央区銀座4-7-5	TEL 03-3563-7072
岡本出版発送㈱	〒353-0001	埼玉県志木市上宗岡3-16-2	TEL 048-471-6291
カクタス・コミュニケーションズ㈱	〒100-0004	東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階	TEL 03-5542-1950
㈱加藤文明社印刷所	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-6-9 NEX水道橋ビル	TEL 03-3261-8281
城島印刷㈱	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2-9-6	TEL 092-531-7102
㈱紀伊國屋書店	〒153-8504	東京都目黒区下目黒3-7-10	TEL 03-6910-0510
㈱クイックス	〒102-0073	東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F	TEL 03-3221-9150
㈱粂川印刷	〒112-0012	東京都文京区大塚6-9-7	TEL 03-3943-9811
港北出版印刷㈱	〒150-0002	東京都渋谷区渋谷2-7-7	TEL 03-5466-2201
三松堂印刷㈱	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階	TEL 03-6823-5360
三美印刷㈱	〒116-0013	東京都荒川区西日暮里5-9-8	TEL 03-3803-3131
三立工芸㈱	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F	TEL 03-3261-5171
三和印刷㈱	〒381-2226	長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1	TEL 026-285-2300
信濃印刷㈱	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋4-1-11	TEL 03-3237-3601
㈱渋谷文泉閣	〒380-0804	長野県長野市三輪荒屋1196-7	TEL 026-244-7185
㈱眞興社	〒150-0033	東京都渋谷区猿楽町19-2	TEL 03-3462-1181
新日本印刷㈱	〒162-0801	東京都新宿区山吹町342	TEL 03-3269-3611
創栄図書印刷㈱	〒604-0812	京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766	TEL 075-255-2288
大同印刷㈱	〒849-0902	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20	TEL 0952-71-8550
ダイニック㈱	〒105-0004	東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル	TEL 03-5402-1811
㈱太平印刷社	〒140-0002	東京都品川区東品川1-6-16	TEL 03-3474-2821
㈱太洋社	〒501-0431	岐阜県本巣郡北方町北方148-1	TEL 058-324-2111
㈱竹尾	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-12-6	TEL 03-3292-3617
宗教法人天然寺	〒204-0021	東京都清瀬市元町1-4-5-711	TEL 0424-92-4359
㈱東京弘報社	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町1-34	TEL 03-3291-1771
㈱とうこう・あい	〒104-0061	東京都中央区銀座8-11-11	TEL 03-3571-6000
東光整版印刷㈱	〒135-0006	東京都江東区常磐2-12-15	TEL 03-3632-0801
㈱トーヨー企画	〒602-0923	京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7	TEL 075-411-8288
図書印刷㈱	〒114-0001	東京都北区東十条3-10-36	TEL 03-5843-9700
㈱日本経済新聞社	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-3-7	TEL 03-5255-2198
萩原印刷㈱	〒112-0004	東京都文京区後楽2-21-12	TEL 03-3811-4272
㈱博報堂	〒107-6322	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F	TEL 03-6441-6711
藤原印刷㈱	〒101-0052	東京都千代田区神田小川町2-4-5	TEL 03-3291-0191
㈱平文社	〒170-0005	東京都豊島区南大塚2-35-7	TEL 03-3944-0301
㈱堀内印刷所	〒335-0034	埼玉県戸田市笹目3-11-5	TEL 048-422-0029
㈱毎日新聞社	〒100-8051	東京都千代田区一ツ橋1-1-1	TEL 03-3212-3340
誠製本㈱	〒174-0042	東京都板橋区東坂下1-19-5	TEL 03-3967-3952
㈱遊文舎	〒532-0012	大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31	TEL 06-6304-9325
㈱読売新聞東京本社	〒100-8055	東京都千代田区大手町1-7-1	TEL 03-3242-1111
㈱ライトコミュニケーション	〒101-0035	東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F	TEL 03-3251-7571
渡辺印刷㈱	〒152-0031	東京都目黒区中根2-7-1	TEL 03-3718-2161

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

論文受理率アップ!
プロがやると全然ちがう
英文校正エディテージ



新サービス登場!『プレミアム英文校正プラス』

プレミアム英文校正

回数無制限・無料 **365日再校正**	カバーレター作成 **無料**
単語数削減サービス **20%まで無料**	担当校正者による **英文評価レポート**

＋

16円/単語〜

プレミアム英文校正プラス

査読コメント対策サービス
無料

「プレミアム英文校正プラス」は、従来研究者が論文発表前に利用する論文の英語チェックとは異なり、提出後の海外ジャーナルからの論文の修正依頼やコメントへの返信まで、ネイティブ校閲者が第三者の視点から英語チェックをするのが大きな特徴です。通常のプレミアム英文校正サービスに査読コメント対策サービスが付いたのが『プレミアム英文校正プラス』です。
論文受理の確率を高めたい方に最適の英文校正サービスです。

エディテージの英文校正

1単語12円〜 最短で3,000単語/1日

プレミアム英文校正

文章構成に踏み込んだ校正と投稿後サポートで確実な論文受理を目指す方のためのハイエンドな英文校正。

- 無料カバーレター作成
- 英文評価レポート
- 単語数削減サービス
- フォーマット調整

1単語6円〜 最短で4,000単語/1日

スタンダード英文校正

業界一のスピード納品、低価格、かつ高品質な校閲で論文の英語の質を国際標準に仕上げます。

- 再校正60%割引
- 英語上達アドバイス
- フォーマット調整

プレミアム英文校正プラス を含む全サービスが10%オフ

割引コード:AJUP2015 | ご利用期限:2015年5月31日まで

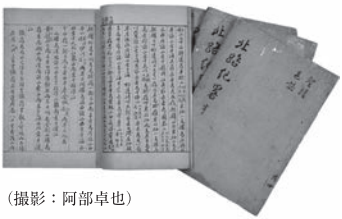
オンライン申込の際に、割引県コード覧に上記の割引コードをご入力ください
※お１人様1回限りご使用になれます(他の割引クーポンとの併用は不可)

エディテージ 検索

www.editage.jp

エディテージはカクタス・コミュニケーションズのサービスブランドです。
カクタス・コミュニケーションズ株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階
お問合せ:03-6868-3348 | submissions@editage.com

editage by CACTUS



（撮影：阿部卓也）

表紙写真：『北路紀略』
（東京大学附属図書館アジア研究図書館所蔵）

『北路紀略』は19世紀頃の朝鮮半島の北方国境地帯について著述した地誌。筆者自身によると思われる校訂の跡が多々あり、資料的価値が極めて高い。

本資料は東京大学新図書館計画における「アジア研究図書館」構築のために発足した研究部門U-PARLが2014年に購入したもの。（資料整理中のため、現在のところ非公開）

大学出版101号（2015年冬）
2015年1月1日発行
頒価100円（〒共）

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091　FAX 03-3511-2092
E-mail：mail@ajup-net.com
URL：http://www.ajup-net.com/

表紙デザイン：阿部卓也

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

■ 北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308　FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168　FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777　FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL 0297-60-1167　FAX 0297-60-1165

■ 聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL 048-725-9801　FAX 048-725-0324

■ 聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111　FAX 047-363-1401

■ 麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL 04-7173-3320　FAX 04-7173-3154

■ 慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168　FAX 03-3451-3124

■ 産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー9階
TEL 03-6266-2400　FAX 03-3211-1400

■ 専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-8
TEL 03-3263-4230　FAX 03-3263-4288

■ 大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1
TEL 03-3918-7311　FAX 03-5394-3038

■ 玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935　FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351　FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会
〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069　FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局
〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL 03-5280-3433　FAX 03-5280-3563

■ 法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎1F
TEL 03-5214-5540　FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003　FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810　FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979　FAX 042-593-0192

■ 関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906　FAX 045-786-2932

■ 東海大学出版部
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL 0463-79-3921　FAX 0463-69-5087

■ 名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027　FAX 052-781-0697

■ 三重大学出版会
〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学附属病院5階
TEL 059-232-1356　FAX 059-232-1356

■ 京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182　FAX 075-761-6190

■ 大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129　FAX 072-941-9979

■ 大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614　FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238　FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002　FAX 0798-53-9592

■ 広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
TEL 082-424-6226　FAX 082-424-6211

■ 九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146
九州大学構内
TEL 092-641-0515　FAX 092-641-0172

■ 東京農業大学出版会（休会）
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL 03-5477-2666　FAX 03-5477-2747